

# 令和3年度本校の全国学力・学習状況調査の結果について

山梨大学教育学部附属中学校 令和3年11月12日

## はじめに

本校では、本年度の全国学力・学習状況調査を6月4日(金)に実施し、3年生142名が参加しました。今年度の調査内容は、国語及び数学の2教科と学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施しました。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

8月末に文部科学省から本校の結果が送付され、本校で結果の分析を行い、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載いたします。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付しますので、自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててもらいたいと思います。

## 1 本校の状況(全国との比較)

- 国語、数学の2教科とも平均正答率は、全国平均を大きく上回り、正答率の散らばり具合も全国と比較すると極めて小さい。

[参考] 国公立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語	数学
全国平均正答率	64.9	57.5
全県平均正答率	66	57

## 2 本校の主な成果と課題

### 国語

- 設問全体を通して、無回答があった設問は14問中3問と本校の無解答率は極めて低い。これは、基礎的、基本的な事項についての理解の高さと、既習事項を活用して問題を解決しようとする学習意欲の高さが現れているものだと考える。
- 設問全体を通して、本校の正答率は全国と比較して高いものとなっている。すべての設問の正答率が、全国平均を上回っていることから、国語に関する基礎的な知識・技能を身につけるための指導を行ってきた成果と考える。また、すべての問題形式(選択式・短答式・記述式)の正答率が、全国平均を上回っており、特に記述式の正答率が高く、自らの考えを記述することで、思考し、判断し、表現する授業を学校全体で構想してきたことによる成果だと考える。
- △ 全国的に正答率が低くなっている設問については、本校でも正答率が低くなっている。課題となる設問は、「読むこと」の指導事項のうち、「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ」ことの力を問う設問である。解答類型をみると、文章に表れていることを捉え、自分の考えを書けてはいるが、文章の一部を引用して書くことに課題があることが分かる。文章を読むことにおいて、目的に応じて、適切に情報を取り出すことを意識した指導を行う必要がある。

### 数学

- 設問全体を通して無解答率が極めて低く、選択式・短答式のみならず、記述式の問題における平均正答率でも全国を大きく上回っていた。内容に対する理解力と、何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。
- 数と式、図形、関数の領域における本校の正答率は高く、全国に比べ領域間の正答率の差が小さい。
- 全国的に記述式の問題における正答率は低くなる傾向が読み取れるが、「目的に応じて式を変形したり、その意味

を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」設問に対して、本校では正答率が高い。

△ 全国平均正答率よりも本校の正答率が高いが、資料の活用の領域における正答率は他の領域と比較すると低い。また、今回の調査で最も正答率の低かったのは全国平均正答率と同様に、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」設問である。

△ 全国平均正答率と同様に、観点別では見方・考え方に関する設問、問題形式では記述式の設問の正答率が低くなっている。

### 3 各教科における主な改善点

#### 国語

- \* 漢字の読み書きの学習の継続に加え、言葉が生きて働く知識として身につくように、実生活や社会生活に応じた場面を具体的に設定して指導する。
- \* 自分の考えを記述し、その記述から自己の変容を自覚させることから、学びを調整する機会を多く設けた授業の構想を行う。
- \* 自分の意見を表現する場面において、根拠を明確にして伝えることを指導する。その根拠として扱う情報については、必要な情報を適切に取り出し、それを生かして、自らの主張を述べる指導を行う。特に意見文を書く際には、「主張と根拠の整合性」や「表現の適切さ」、「情報の信ぴょう性」を意識させた指導を行う。

#### 数学

- \* 数学的な見方・考え方を働かせられるように、正答を求めることだけに終始せず、数学的に探求する場面を日常的に取り入れていく。
- \* データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにするために、日常生活において統計学習のサイクル PPDAC (Problem・問題, Plan・計画, Data・データ収集, Analysis・分析, Conclusion・結論)を意識した活動を取り入れたりと、分布の特徴を踏まえながら数学的な表現を用いて判断の理由を説明させる活動を充実させたりする。
- \* 自分の考え方をまとめたり、根拠を正確に表したり、方法を説明させたりする活動を意図的に組み込むことで、記述力を養う機会を充実させる。

### 4 質問紙調査の結果から

69の質問項目から、「肯定的な回答が著しく高いもの」または「全国平均と比較して、その差が大きいもの」は、次のとおりです。

- \* 肯定的な回答とは、「当てはまる」または「どちらかという当てはまる」を合わせた回答。

#### 【基本的な生活習慣等】

- 「普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」  
の質問については、「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」の回答を合わせても1割に満たない。さらに全国平均と比べても大きく下回っている。

#### 【挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等について】

- 「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか」
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」

- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」
- 「友達と協力するのは楽しいと思いますか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒が9割を超え極めて高い値となっている。

- △「将来の夢や目標を持っていますか」
- △「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか」

これらの質問については、肯定的な回答をしていない生徒が2割を超え全国平均と比べ同程度の値となっている。

#### 【学習習慣, 学習環境等】

- △「新聞を読んでいますか」

の質問については、「ほぼ毎日読んでいる」「週に1~3回程度読んでいる」「月に1~3回程度読んでいる」と答えた生徒を合わせると5割を超え、全国平均を大きく上回っている。ただ、「ほとんど、または、全く読まない」と答えた生徒も5割近くおり、全国平均と同程度となっている。

#### 【ICT を活用した学習状況】

- 「学習の中でコンピュータなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」

の質問については、肯定的な回答をした生徒が9割を超えている。

- 「1,2年生の時に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」
- 「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使っていますか」

これらの質問については、「ほぼ毎日」または「週1回以上」を合わせた回答は4割を超え、さらに全国平均を上回った。ただ、「ほぼ毎日」と答えた生徒は、全国平均には満たない値となっている。

#### 【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- 「1,2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか」
- 「1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」
- 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒が9割を超えている。

- 「1,2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」
- 「1,2年生の時に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」

これらの質問については、8割を超える生徒が、肯定的な回答をし、全国平均を大きく上回っている。

#### 【総合的な学習の時間, 学級活動, 特別の教科道徳】

- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの活動に取り組んでいますか」
- 「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見の良さを生かして解決方法を

決めていますか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒が9割を超え、全国平均を大きく上回っている。

#### 【学習に関する興味・関心や授業の理解度等(国語・数学・英語)】

○「授業(国語, 数学)の内容はよく分かりますか」

については、8割の生徒が肯定的な回答をし、全国平均を上回っている。

○「国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」

○「数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか。」

これらの質問については、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と全ての生徒が答え、全国平均を大きく上回っている。

○「1, 2年生のときに受けた英語の授業では、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていましたか」

の質問については、肯定的な回答をした生徒が8割を超え、全国平均を大きく上回っている。

#### 【新型コロナウイルス感染症の影響】

○△「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか」

○△「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか」

これらの質問については、肯定的な回答をした生徒が9ポイント程度全国平均を上回っているが、いずれも5割程度にとどまっている。

## 5 質問紙調査結果から見た改善点

本校生徒は規範意識、自己有用感とも高く、仲間とともに切磋琢磨しながら、落ち着いた生活をしているといえる。その一方で、将来の夢や目標を持っている、難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦することについて肯定的でない回答をした生徒が2割を超えている。生徒が、中学校生活3年間で生徒会活動や特別活動を通して主体的に活動し、成功体験や失敗した経験を学校生活に生かすことができるような取り組みをいっそう充実させていく。

新聞を読む生徒は、全国平均を大きく上回ってはいるものの、「全く読まない」と回答した生徒が5割弱いるので、今後も「教科横断的な幅広い話題が取り上げられて新聞」を教材として積極的に活用していきたい。

授業で ICT 機器を活用することが課題として挙げられていたが、今年度導入された一人一台パソコンの活用を進め、具体的に実践していくことが必要である。このことについては、10月に本校独自に実施した「オンライン授業のアンケート」調査において、9月臨時休業時の経験により「オンライン授業で計画的に行動できた」と肯定的に回答した生徒が、全体で83.9%となっており、改善していると考えられる。今後、どのような環境下であっても生徒の「学び」が止まることがないように、ICT機器の活用を推進し、日常的に取り入れていく取組を進めていきたい。

#### 【保護者の皆様へ】

調査結果より本校生徒が学校生活に対して、前向きに意欲的に生活している様子がうかがえます。今回の結果を参考にし、教職員一同、今後も生徒一人ひとりが成長できる学校づくりを目指し努力する決意です。今後とも、附属中教育へのご理解とご協力をお願いいたします。